

モンゴル通信

NO.14

ウブルハンガイ県の自然

ウムヌゴビから北西に移動しながら見た景色も初めて目にするものばかり。ウブルハンガイ県の“ウブル”は南を“ハンガイ”は森林や水の多い肥沃な地を意味します。その名の通り、高い山に河川に滝、生い茂る木々が織りなす景色は本当に美しかったです。山道で、目の前に現れるのはヤク（標高3,000m以上の高地に生息するウシ科の動物）。道を譲ってくれるまでヤク待ちするのですでした。



ヤクの後ろ姿



オルホン川流域の景色

風呂なし トイレなし 電気なし 電波なし

繰り返しになりますが...風呂なしトイレなし電気なし電波なしの10日間。“まあ、何とかなるだろう！”と出掛け、何とかになりました。その事例をいくつかご紹介します。

①ウムヌゴビで太陽にさらされ、砂丘に登って汗と砂にまみれ、頭がかゆすぎて、フケか砂か分からなくなるまで4日。5日目に会った茶色い川に大喜び。調理用のボールを片手に髪を洗う。気持ちが良いすぎて水が茶色かったことも忘れ「サラサラになったー♪」と盛り上がる。9日目に湖畔に泊まったけれど「もう帰るし」と髪は洗わず。洗髪は一回で、まともに顔を洗えたのは、川と湖に出会えた二回だけ。日焼け止めの上書き保存も気しない。



5日目に念願の水浴び



いつでもどこでも相撲を取ります

②スマートフォンは元々使えないのだが、通話すらできない。遊牧民の子どもと駆けっこし、モンゴル人と相撲を取り、皆で野うさぎを追いかける。モノがなくても仲間がいたおかげで、存分に楽しめた。

③暗くなる前に牛糞を集め、夜は火を焚いて過ごす。

④食事は3食全て自炊。出発前にウランバートルの市場で日持ちする野菜と2、3日分の肉と缶詰、米や乾麺、水を買ひ、後は移動中にポツンと現れる村に寄って買い足した。水がもったいないため野菜を洗うことをやめる。米を洗うこともやめたら、苳が残って時間がかかりガスの浪費につながった。洗うだけで、米は水分を含むことがよくわかった。洗剤を使うと洗い流すのに多くの水を使用しなければならぬので、洗剤を使うこともやめた。

水の大切さ 太陽の暖かさ 雲の影の涼しさ

水がない暮らし。服や髪、身体はおるか、手すら満足に洗えず、日に日に黒くなっていく自分。それでも食事を作れる水があるって有難い。砂漠で喉がカラカラになり、手持ちの水が無くなったときは、身の危険を感じました。日本ほど十分に水が使えないモンゴルにおいても、捨てるように水を使っていたあとと日常を振り返らずにはいられませんでした。

電気がない暮らし。曇りや雨が続けば太陽を乞い、日照りが続けば雲を乞う自分。何てわがまま！

広い大地に立つと、太陽の光や雲の影、風の流れや遠くに降る雨はもちろん、雨上がりには180度の虹を見ることもできます。

モンゴルの砂漠、平原、高原で暮らす遊牧民は、それぞれの環境の良さと厳しさを全て受け入れ、慌てず騒がず穏やかに暮らしているように思います。自然は人の手で壊すことはできても思い通りに変えられないこと、自然は困難も多くの恵みも与えてくれることを最も良く知る人々かもしれません。彼らが、自然には神様が宿ると考え、感謝し大切にし、共存し続ける訳が分かった気がします。（富井愛）



12人分のカレーを調理中

